

山岸俊男著 『日本の「安心」はなぜ消えたのか - 社会心理学から見た現代日本の問題点』(集英社インターナショナル、2008年)

著者は10年前に「集団主義社会は安心を生み出すが信頼を破壊する」を中心的メッセージとした『信頼の構造 - こころと社会の進化ゲーム』を上梓した。これから日本社会が閉鎖型ないし集団主義型の安心社会から開かれた機会重視型の社会への移行するにあたって、信頼の醸成が重要との問題提起を行ない話題になった。本書は、その後、10年を経過した今日の日本社会を見据えて著者の考えを改めて展開したものである。本書で、社会問題の本質に迫るにあたって「心」に結びつけたり、精神論で語ることは思考停止、非科学的方法であり、またお説教では世のなかは変わらない。今日、日本社会で問題なのは人間の利他性、「情けは人のためならず」のしくみが喪失していることであり、信頼社会を定着させるうえで武士道的な精神(統治の倫理)を排して商人道的精神(市場の倫理)を大切にすることが重要と主張している。

本書のなかで展開されている論点をいくつか紹介しておこう。

1. 社会問題の解決を「心」に求める風潮が強くなっているが、「日本人らしさ」でよく取り上げられる「日本人は家族よりも会社を大切にすると会社人間だ」や「自己卑下傾向がある」、「横並び意識が強い」、「日本の社会は欧米に比べ集団主義的傾向が強い」などは日本人が社会のなかで「生き抜くための戦略だった」。
2. 日本社会をアメリカ社会と対比すると、他人を信頼するアメリカ人、信頼しない日本人、という像が浮かび上がってくる。これを周知のことわざで言い換えると、アメリカ人は「渡る世間に鬼はなし」、日本人は「人を見たら泥棒と思え」ということになる。
3. 社会には安心社会と信頼社会がある。集団主義原理によって立つ安心社会は、社会の仕組みがそこに暮らす人たちに「安心」を提供してくれる社会 - 言い換えるならば、その中に暮らしているかぎり、相手が信頼できるかどうかを考える必要もない社会である。これに対して、信頼社会は信じるものはトクをする社会である。自分自身で誰を信頼し、誰と協力行動をするかを決めなくてはならない社会のことであり、たとえ失敗のリスクがあったとしても、他者と協力関係を築くことにそのリスク以上の意義を認める社会のことである。
4. これまでの日本は、集団主義原理で「信頼」を必要としない「安心社会」。その典型は昔の農村社会で、他者を信頼せずに暮らせる集団主義の社会であった。そこでは、監視、問題があれば制裁も行なう社会であった。会社のケイレツ、株の持ち合い、護送船団方式も同じ流れのなかにある。「日本人らしさ」と呼ばれるものは日本人の心の中に最初からあるものではなく、日本の社会にうまく適応するために生まれてきた「心の働き」である。
5. 著者は、経済のグローバル化、情報公開などで集団主義の安心社会は時代遅れになった。グローバル化の流れに逆行して、かつてのような閉鎖社会、安心社会を作り上げるのは無理。再び安心社会に戻れない、否が応でも信頼社会に適応して生きていくしかなくなった、とみる。

しかし、現代の日本は、安全社会から信頼社会へのシフトチェンジがよくできていない。消えた年金、構造計算偽装事件、食品の偽装問題などの不祥事、問題が生じたさいの隠蔽・偽装工作などはその実例である。

- また、場の空気を読み、他者との間に波風を立てない生き方を重視している若者の生き方も実例に数えられている。「本来ならば、安心社会の崩壊は既得権益を持った大人たちの危機であり、信頼社会の成立は未来ある若者たちにとっての福音であるはずですが。それなのに、その若者たちが信頼社会への変化を嫌い、身の回りにある友人関係という小さな安心社会にしがみつ、その中での『平安』を求めているとしたら - これは日本の将来にとっても、また若者たち自身の未来にとってもゆゆしいことと言わざるをえません」と(ちなみに、著者の本書出版時の年齢は60歳)。
6. 著者は、安心社会から信頼社会への移行がうまくいっていないその最大の理由として、他人を信頼できない、他者への不信を挙げている。臨界質量(結果ががらりと変わる、その潮目となる比率)を変えるためには、モラル教育やアメとムチの制裁をいくら熱心にやっても無駄。正直な人、約束を守る人がトクをする社会を作ることが肝要と指摘する。この「正直者がトクをする社会」を作るためのヒントとしてヨーロッパ中世の地中海貿易で覇権を競ったマグレブ商人とジェノバ商人の逸話を引く。周囲の環境が激変したり、流動的になると、従来の取引関係にこだわっていると機会コストがどんどん発生し、儲かるチャンスを見逃すことになる。身内との取引にこだわったマグレブ商人は時代の流れに乗り遅れた。マグレブ商人は「未来への可能性」を捨てた。ジェノバ商人は高い取引コストは発生させはしたが、それを上回る形でチャンスをつかんで利益を拡大し、マグレブ商人より発展した。
7. 著者は、日本の信頼社会への移行について悲観的に考えているようだ。安心社会と信頼社会について、ジェイン・ジェイコブスの人類には二種類のモラルがあり、それぞれ独立した、そして対立した「モラルの体系」を作り出しているとの指摘を引く。それは、「市場の倫理」と「統治の倫理」、分かりやすく言えば「商人道」と「武士道」。安心社会は統治の倫理、武士道、信頼社会は市場の倫理、商人道ということになる。²ここ10年あまり日本で行なわれてきた改革、安心社会から信頼社会への移行が進まず問題を引き起こしている要因として、著者は信頼社会と相容れない、有害ですらある「武士道精神」を取り戻すことを唱える議論を、「これは的外れ」と批判する。日本社会に求められているのは、今こそ商人道を推進することが大切と主張している。

本書を読んで、ここでは二つの印象を記しておきたい。そのひとつは、著者は「この地球上には安心社会と信頼社会という二種類の社会が存在する」、「これからも人類社会は安心社会と信頼社会の二本立てで進んでいく」と言っているが、北欧などの福祉社会は個人主義原理で、国単位で安心社会を形作っているように思われる。このような社会はどう位置づけられるのであろうか。第3の社会はいずれかの社会の傍流ということであろうか。

もうひとつは安心社会から信頼社会への移行にあたって、日本社会はこの間、市場重視で規制緩和がセイフティネット不備のまま推し進められ、消えた年金や雇用の柔軟化などは社会問題にもなっている。このような日本社会の現状をみてハーバード大学のマルガリータ・エステベス・アベ

教授は「日本こそが先進国の中で一番冷たい格差社会である」と断言している。³日本社会の仕組みが大きく変わっているとすれば、生活の拠り所であった企業や家庭基盤も大きく変容しているなか、今日を生き抜くための新たな生活モデル確立の緊急性を喚起させられた（白石利政）。

1. 山岸俊男 信頼の構造 - ことと社会の進化ゲーム（東京大学出版会、1998年）
2. ジェイン・ジェイコブスの『市場の倫理 統治の倫理』（香西泰・訳、日経ビジネス人文庫、2003年。原題はSystems of Survival, A Dialogue on the Moral Foundations of Commerce and Politics, 1992）は、呼びかけ人である元・名編集長（男性：60歳位？）と犯罪小説を得意とする作家（男性：50歳を迎える）、離婚や育児、家族扶養などの訴訟を専門とする弁護士（女性：43歳）、環境保護論者（男性：43歳）、動物行動学者（女性：30歳）の5人が、二つの道德律を巡って対話形式で議論を繰り広げている面白い本である。対話では以下のような道德律が取り上げられている。

市場の倫理 統治の倫理の15カ条

市場の倫理 (Moral syndrome A)	統治の倫理 (Moral syndrome B)
暴力を閉め出せ (Shun force)	取引を避けよ (Shun trading)
自発的に合意せよ (Come to voluntary agreements)	勇敢であれ (Exert prowess)
正直たれ (Be honest)	規律尊重 (Be obedient and disciplined)
他人や外国人とも気やすく安く協力せよ (Collaborate easily with strangers and aliens)	伝統堅持 (Adhere to tradition)
競争せよ (Compete)	位階尊重 (Respect hierarchy)
契約尊重 (Respect contracts)	忠実たれ (Be loyal)
意工夫の発揮 (Use initiative and enterprise)	復讐せよ (Take vengeance)
新奇・発明を取り入れよ (Be open to inventiveness and novelty)	目的のためには欺け (Deceive for the sake of the task)
効率を高めよ (Be efficient)	余暇を豊かに使え (Make rich use of leisure)
快適と便利さの向上 (Promote comfort and convenience)	見栄を張れ (Be ostentatious)
目的のために異説を唱えよ (Dissent for the sake of the task)	気前よく施せ (Dispense largesse)
生産的目的に投資せよ (Invest for productive purposes)	排他的であれ (Be exclusive)
勤勉なれ (Be industrious)	剛毅たれ (Show fortitude)
節儉たれ (Be thrifty)	運命甘受 (Be fatalistic)
楽観せよ (Be optimistic)	名誉を尊べ (Treasure honor)

3. http://www.excite.co.jp/News/economy/20080630/Diamond_20080630002.html